

スマートフォンを使った配車サービスを手がける米ウーバーテクノロジーズは京都府京丹後市で月内にも、一般の車で住民や観光客を有償で運ぶサービスをNPO法人と始める。自家用車で人を運ぶ有償サービス「ライドシェアリング」は日本では原則認められていない。ただ、公共交通機関が乏しい地域では例外となっており、今回のサービス開始を機にほかの地域で

一般車で人運ぶ 有償サービス

ウーバー、京都で月内に開始

もウーバーとの連携が進む可能性がある。

京丹後市が支援するNPO法人がこのほど、国土交通省に住民らを有償で運ぶ登録を済ませた。このNPO法人がウーバーのシステムを使い、一般のドライバールと乗車希望者をマッチングする。料金は初乗りを480円とし、総額もタクシーの半額程度に抑える。

タクシーなどの地元事業者の経営を圧迫することが

交通弱者の足と期待される一方、既存事業者の反発などを招いている。

国内では2015年に福岡市で始めた有償実験に対し、国交省から「報酬支払いが法に触れる恐れがある」と待ったがかかった。無償ボランティアの自家用車で人を運ぶと16年2月に発表した富山県での実験も

世界約400都市で配車アプリを展開するウーバーは「シェアリングエコノミー（経済圏）」のけん引役、追い込まれている。